スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

新潟県 佐渡市

自 治 体 名 ： 新潟県佐渡市
担 当 課 名 ： 社会教育課
電 話 番 号 ： ０２５９-５８-７３５６

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	855 ㎢
人口	48,757 人
公立中学校数	13 校
公立中学校生徒数	1,045 人
部活動数	44 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

佐渡市では、生徒数の減少やそれに伴う教員数の減少、取り組める部活動の選択肢が限られるといった現状があり、年々部活動を取り巻く環境は厳しくなっている。

・複式学級を有する小中連携校が4校あり、スポーツの部活動は個人出場可能な1～2種目に限られている。

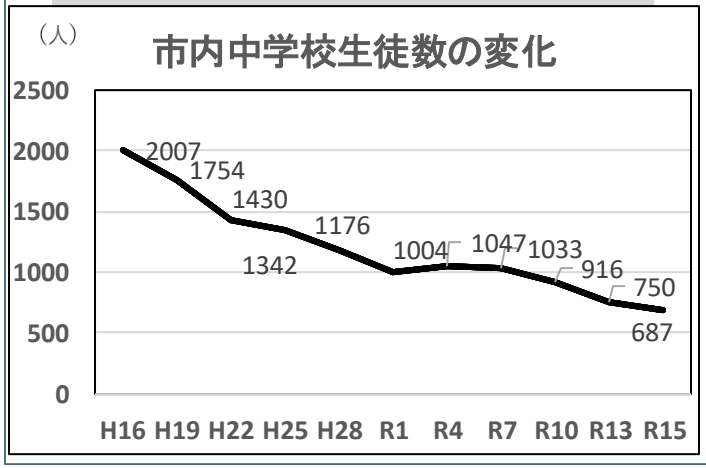
・生徒数の減少に伴い、野球やバレーボールなどの団体種目では単独校での出場がかなわず複数校でチームを組むケースが見られる。

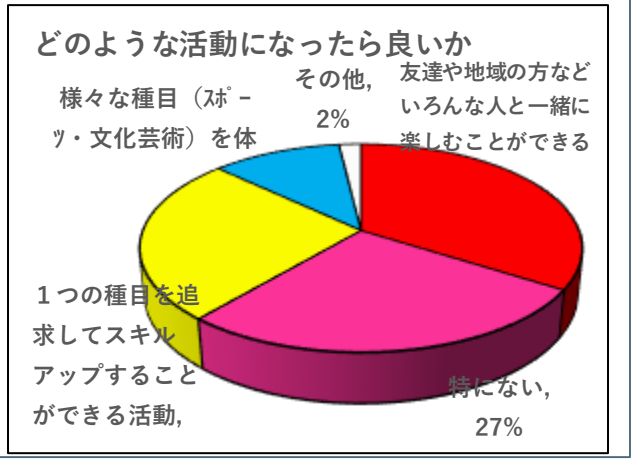
国や県の方針に沿って休日の部活動を地域に移行する取組を早急に進めることにした。部活動を地域へと移行するにあたり、学校と地域が協力いかにして構築していくかが重要となる。

令和５年12月に「地域クラブ活動に関するアンケート調査」を実施し、生徒の希望調査をした。その結果、多様な人との交流を望む生徒が34%、スキルアップを望む生徒が26%と高くなっている。

多様な人との交流を可能にするためには単発で参加できる種目数を多くすることと参加者を多くする必要がある。また、スキルアップを達成するためには年間を通して同じ種目に取り組めることと、練習回数を多く設定する必要がある。

これらの生徒の要望を可能にすべく、年間の活動回数を増やすことと新たな種目を増やし昨年以上の参加生徒を目指すことにした。



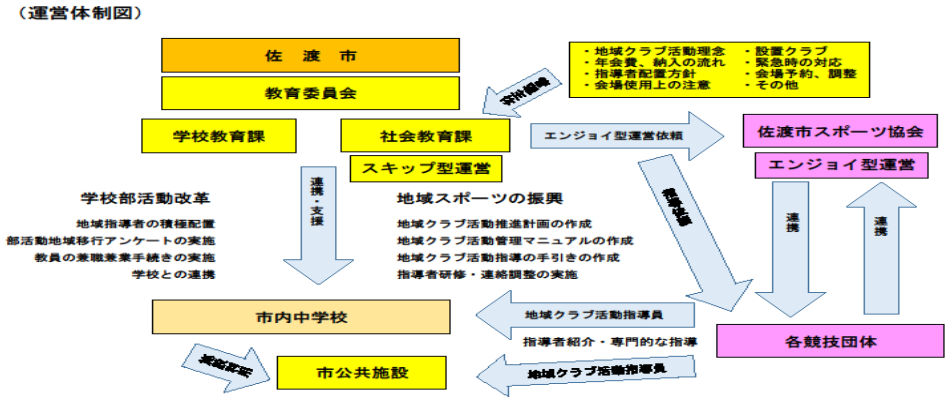


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制･役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（学校教育課）

・市内公立中学校、中等教育学校、特別支援学校との連絡調整を図り「地域クラブ活動」の参加募集を募る。

・佐渡市地域クラブ活動推進協議会の事務を担当し、開催案内と当日の進行を進める。

◉教育委員会（社会教育課）・

・佐渡市スポーツ協会や各スポーツ団体と協議し、地域クラブ活動の具体的な活動の企画運営を担当する。

・スポーツコーディネーターを配置し、指導者との連絡調整、参加生徒との連絡、会場予約の実務を行う。

年間の事業スケジュール

令和6年４月	佐渡市地域クラブ活動募集開始
令和６年５月	指導者研修会
令和６年５月	第1回佐渡市地域クラブ活動推進協議会
令和６年５月	佐渡市地域クラブ活動開始
令和６年８月	スポーツ交際交流員SEA来日
令和６年９月	指導者技術研修会（バドミントン）
令和６年11月	指導者技術研修会(野球）
令和６年11月	中体連との意見交換会
令和６年12月	地域クラブ活動に関するアンケート調査
令和７年２月	第２回佐渡市地域クラブ活動推進協議会
令和７年３月	第３回佐渡市地域クラブ活動推進協議会

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	13 校	実施した地域クラブ総数	35 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		20 クラブ（44 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		15 クラブ
全体の指導者数	149 人	全体の運営スタッフ数	8 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
バスケットボールクラブ	バスケットボール協会	バスケットボール	月 2 回	9:00～12:00	中学1~3年生	5/25～3/15	中学校体育館	10 人	3 人（内、兼務 2 人）	年会費2,000 円	中体連：部活動
バドミントンクラブ	バドミントン協会	バドミントン	月 2 回	9:00～12:00	中学1~3年生	5/25～3/15	中学校体育館	16 人	3 人（内、兼務 2 人）	年会費2,000 円	中体連：部活動
ソフトテニスクラブ	ソフトテニス連盟	ソフトテニス	月 2 回	9:00～12:00	中学1~3年生	5/26～3/16	市営施設中学校テニスコート	14 人	3 人（内、兼務 2 人）	年会費2,000 円	中体連：部活動
野球クラブ	野球連盟	野球	月 2 回	9:00～12:00	中学1~3年生	5/25～3/16	市営施設中学校グラウンド	24 人	3 人（内、兼務 2 人）	年会費2,000 円	中体連：部活動
卓球クラブ	卓球連盟	卓球	月 2 回	9:00～12:00	中学1~3年生	5/25～3/15	中学校体育館	15 人	3 人（内、兼務 2 人）	年会費2,000 円	中体連：部活動
バレーボールクラブ	バレーボール協会	バレーボール	月 2 回	9:00～12:00	中学1~3年生	5/26～3/16	小学校体育館	3 人	3 人（内、兼務 2 人）	年会費2,000 円	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●佐渡市地域クラブ活動小学生体験会　令和7年2月9日（日）実施

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
トレッキングクラブ	山岳会	トレッキング	年３回	9:00～12:00	中学1~3年生	5/26～10/20	ドンデン山	6人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし
陸上クラブ	陸上競技協会	トラック競技	年４回	9:00～12:00	中学1~3年生	5/26～3/16	陸上競技場	5人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし
ボルダリングクラブ(新)	地域	ボルダリング	年２回	9:00～12:00	中学1~3年生	6/2～6/30	クジラウォール	2人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし
ゴルフクラブ(新)	ゴルフ連盟	ゴルフ	年２回	9:00～12:00	中学1~3年生	6/30～7/7	ときの郷ゴルフクラブ	2人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし
マリンスポーツクラブ	サードフィールドさど	ヨット、カヌー、レガッタ	年４回	9:00～12:00	中学1~3年生	7/7～8/18	加茂湖	17人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし
体操クラブ(新)	地域	マット運動	年２回	9:00～12:00	中学1~3年生	7/21～7/30	ヒルトップアリーナ	1人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし
空手クラブ	空手道連盟	空手	年３回	9:00～12:00	中学1~3年生	8/18～9/27	ヒルトップアリーナ	5人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし
硬式テニスクラブ(新)	テニス協会	硬式テニス	年２回	9:00～12:00	中学1~3年生	9/15～9/22	スポーツハウス	2人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし
自転車クラブ	ゴールデンアイビス	自転車	年３回	9:00～12:00	中学1~3年生	5/26～3/16	小学校体育館	3人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
水泳クラブ	水泳連盟	水泳	年３回	9:00～12:00	中学1~3年生	11/17~12/15	スポーツハウス	1人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし
サッカークラブ	サッカー協会	サッカー	年４回	9:00～12:00	中学1~3年生	11/3~12/15	陸上競技場	6人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし
スキークラブ	スキー協会	スキー	年４回	9:00～12:00	中学1~3年生	1/12~2/16	平スキー場	6人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし
ダンスクラブ	地域	ダンス	年４回	9:00～12:00	中学1~3年生	1/12~2/16	スタジオパル	2人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし
柔道クラブ(新)	柔道連盟	柔道	年２回	9:00～12:00	中学1~3年生	3/2~3/16	ヒルトップアリーナ	2人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし
剣道クラブ(新)	剣道連盟	剣道	年２回	9:00～12:00	中学1~3年生	3/2~3/16	ヒルトップアリーナ	2人	3人（内、兼務2人）	年会費2,000円	参加なし

2.実証内容と成果

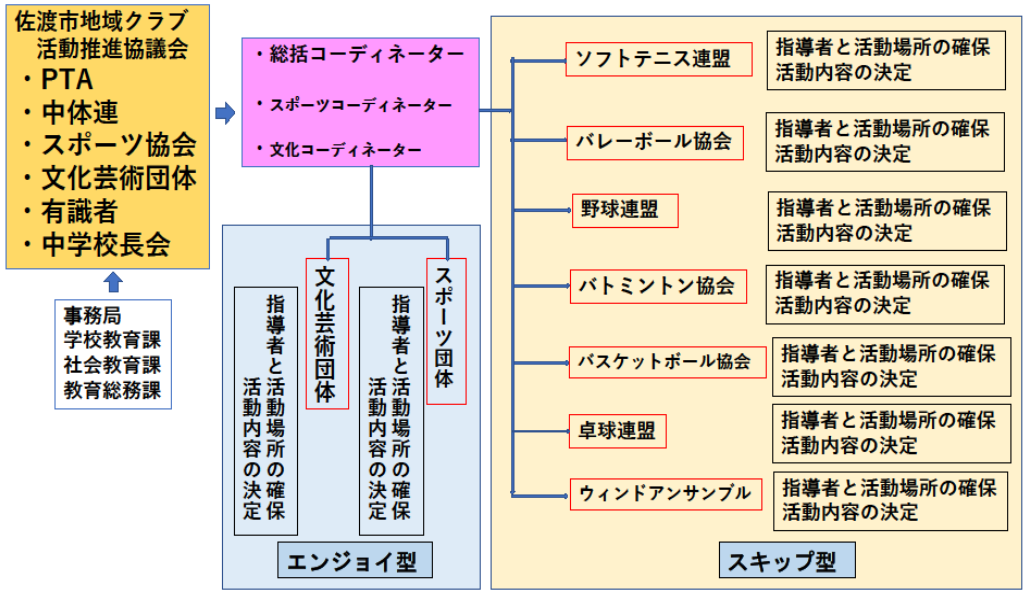
スポーツ庁

主な取組例

●バスケットボールクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール
運営団体名	バスケットボールクラブ
期間と日数	佐和田会場：５月26日 ～ ３月16日 月２回程度（日曜日開催） 畑野会場：５月25日 ～ ３月15日 月２回程度（土曜日開催）
指導者の主な属性	市バスケット協会、中学校教員
活動場所	佐和田中学校体育館、畑野中学校体育館
主な移動手段	徒歩、保護者送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	年間2,000円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者（社会体育係　係長）

役割：活動における管理者として全体の総括を行う

●スポーツコーディネーター　１ 名

役割：会場予約、指導者との連携、各種調整を行う

●主任指導者　１ 名

役割：活動における主任者として生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

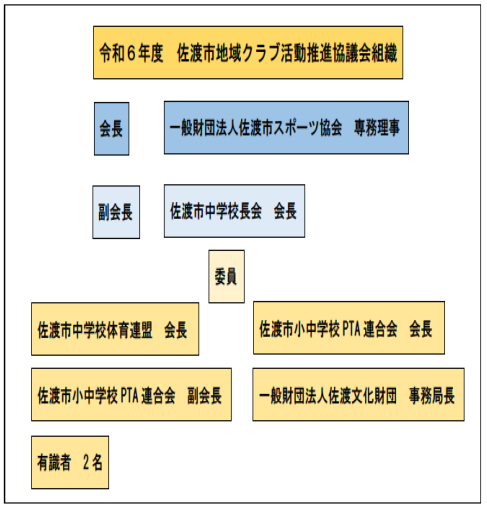
〇地域クラブ活動に参加可能な競技団体を選定する際には、佐渡市スポーツ協会と協議して決定した。また、エンジョイ種目については、佐渡市スポーツ協会に運営を依頼することにした。そのため、新たな地域クラブ活動の種目の発掘が可能となった。

〇スポーツコーディネーターが、学校や各スポーツ団体、及び参加生徒との連絡調整を行ったり、種目ごとの会場予約をしたりし、地域クラブ活動がスムーズに実施できるように取り組んだ。

取組の成果

〇佐渡市スポーツ協会の専務理事を佐渡市地域クラブ活動推進協議会の協議会長に据えることにより、この活動にイニシアチブをもつとともに地域移行の取組とスポーツ協会との結びつきを強固にできるように図っている。佐渡市スポーツ協会にエンジョイ種目を委託することによって加盟する多くのスポーツ団体を活かし、部活動の種目に無い活動が可能となった。具体的には、今年度新たにボルダリング、ゴルフ、体操、硬式テニス、柔道、剣道の6種目を加えることができた。この結果、生徒は、15種目の多様な活動から自分の好みに応じた種目を選択することができるようになり参加者増につなげることができた。

〇スポーツコーディネーターが参加生徒や指導者との丁寧な連絡調整を行うことによって徐々に参加者数が増えている。令和5年度の実績としてスキップ型191名、エンジョイ型99名だったが、令和6年度は６月現在、スキップ型267名、エンジョイ型が213名にまで増加している。



コーディネーターの具体的な動きの実績

【スポーツコーディネーター】

・新種目が実施されるときには必ず参観し、参加者の感想を記録したり課題のヒアリングをしたりしている。

・学校、参加者、指導者への連絡調整を実施している、特に雨天時の外での種目に対して会場の変更に努めている。

今後の課題と対応方針

●来年度の週休日月3回の実施に向けて多くの課題が想定されている。

・スポーツ協会と連携しながら一層指導者の確保に努めていく。

・アンケート調査を実施して新たな種目の開発に努める。

・コーディネーターを中心に会場の確保に努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

部活動と同じ種目のスキップ型については、スポーツ協会の加盟団体に依頼し、会場数に見合った指導者の確保を依頼した。中心地から遠方の学校については学校の教員に兼職兼業を依頼したり地域の人材に依頼したりして指導者を確保した。

部活動には無い種目のエンジョイ型については、スポーツ協会に種目の選定とともに指導者の確保を依頼した。

SEAの採用

今年度SEA（スポーツ国際交流員）を3名採用した。アメリカ合衆国2名、インドネシア1名で、それぞれ野球、バスケットボール、バドミントンの指導にあたっている。この3名は、生徒の指導もさることながら、指導者にとって新たな技術やトレーニング方法を学ぶことができる期待となっている。

スキップ型指導者数

〇ソフトテニス　14人
〇卓球　15人
〇バスケットボール　11人
〇バドミントン　19人
〇野球　25人
〇バレーボール　3人
合計　87人

エンジョイ型指導者数

〇サッカー　6人　〇スキー　6人
〇トレッキング6人　〇陸上　5人
〇空手　5人　〇自転車　3人
〇ゴルフ　2人　〇ダンス　2人
〇ボルダリング　2人〇柔道　2人
〇硬式テニス　2人〇剣道　2人
〇体操　1人　〇水泳　1人
〇マリンスポーツ17人合計62人

取組の成果

佐渡市スポーツ協会と連携して取り組んできた結果、地域クラブ活動に関わる指導者が149人となり昨年度に比べて61人増加した。種目数も16から21に増やすことができた。その結果、参加する生徒数もかなり多くなり、スキップ型が76人増、エンジョイ型が114人増（延べ人数）となっている。課題となっているのは、参加者数の問題である。サッカーやゴルフ、水泳などアンケート調査では10人以上の参加希望があったが実際の参加者は1人という結果となっている。他のエンジョイ種目も参加人数が少ない種目が見られる。何とか指導者を確保しているので参加者をいかにして増やしていくかが課題となっている。

佐渡市スポーツ協会　加盟競技団体	
佐渡市ゲートボール協会	佐渡山岳会
佐渡水泳連盟	佐渡バドミントン協会
佐渡スキー協会	佐渡バスケットボール協会
佐渡バレーボール協会	佐渡市テニス協会
佐渡サッカー協会	佐渡野球連盟
佐渡市剣道連盟	佐渡柔道連盟
佐渡卓球連盟	佐渡ソフトテニス連盟
佐渡空手道連盟	佐渡市陸上競技協会
佐渡ゴルフ連盟	

出典:一般財団法人　佐渡市スポーツ協会

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

指導者全体に対しては、中学生に対する対応の仕方の研修を実施した。地域の指導者にとっては自分の種目の技術指導よりも中学生の特性を知り、技術指導については、バドミントンと野球について島外から指導者を招聘して実施した。また、一人一人の指導者には「安全管理マニュアル」と「指導の手引き」を渡し、危機管理意識と指導に対する責任をもたせることにした。

指導者研修の参加実績

〇指導者研修会
・演題 「子どもを育てる地域クラブ活動の指導」
・講師　新潟医療福祉大学　教授　山崎　史恵　様
・開催日：　5月11日・12日　　・開催回数：2 回
・参加人数：33 人
〇指導者技術研修会（バドミントン）
・講師　NTT東日本バドミントン部　　・開催日：　9月14日
・参加人数：10 人
〇指導者技術研修会（野球）
・講師　NTT東日本野球部　　・開催日：　11月16日
・参加人数：17 人

受講者の声

・NTTの講師の方に時間をかけてノック指導してもらえたことがとても参考になったし勉強になった。
・日本の一流選手のプレーや言葉に直に接することができて、考えを新たにすることができた。
・様々な指導法を教えていただいて今後の指導の参考になった。
・実際に中学生を指導し、実績を上げている指導者による研修もよいのではないかと思いった。優秀選手ではない生徒の指導についても知りたい。
・NTT東日本が実際にやっているメニューを知れたのが良かった。中学生を指導するうえで、自分の経験に基づく指導ではなく、結果を出している人や実績のあるチームが取り入れてる練習法ならば自信をもって子ども達に伝えられると感じた。

今後の課題と対応方針

令和７年度には、地域クラブ活動の回数を月3回に増やしていくことが決まっている。今後指導者の確保が重要な課題となってくるが、スポーツの経験者であれば良いというのではなく、指導者としての適格性を担保した人材が必要である。離島であるため、広域的な協力も得られない状況下なので各スポーツ団体と協力しながら新たな指導者の育成に努めていきたい。また、指導者のモチベーションを高めるため「指導者マスター制度」を採り入れ何らかの特典を与えられるよう検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

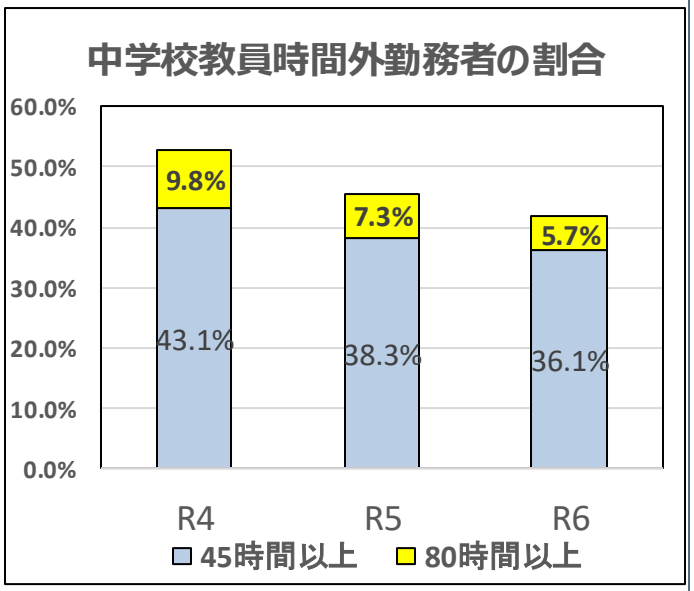
取組事項

○学校と連携して進めていくため、中学校校長会長や中体連会長PTA連合会の役員を佐渡市地域クラブ活動推進協議会の委員に委嘱し、本市の取組及び今後の見通し等について意見を聞きながら進めている。

○指導者の派遣、施設の利用、学校行事の確認等、スポーツコーディネーターが学校と連携しながら実施している。

取組の成果

課題となっていた教員の働き方改革について、地域クラブ活動を開始した令和5年から教員の時間外勤務者は年々減少傾向にある。令和5年度には月1回の週休日を部活をしない日に設定し、令和6年度には月2回の週休日を部活動をしない人設定している。その結果、45時間以上の勤務者は令和4年度には全体の43%となっていたが令和6年度には36%まで減少している。さらに、80時間以上の勤務者は令和4年度には全体の9.8%となっていたが令和6年度には36%まで減少している。地域クラブ活動の実施も教員の時間外勤務者を減らす要因の一つになっているのではないかと考えられる。



出典：佐渡市教育委員会　学校教育課

中体連との意見交換会

・日　時　　11月15日
・参加者　各中学校体育主任、社会教育課
・内　容　　〇今年度の取組について質疑応答
　　〇来年度の取組について意見交換
　　〇来年度の中体連の大会日程

中学校との連携・依頼事項

・令和6年度月2回の地域クラブ活動日は部活動休止日とする。
・「地域クラブ活動募集要項」「地域クラブ活動たより」「地域クラブ活動アンケート調査」等の配布、及びポスターの掲示をする。

今後の課題と対応方針

令和7年度、月3回の地域クラブ活動実施に伴い、部活動は週休日に月1回の実施となる。今まで週休日に部活動の練習試合を実施していた中学校にとって練習試合の継続が難しい状況となる。地域クラブ活動同士で練習試合を経験するなど対策が必要となる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

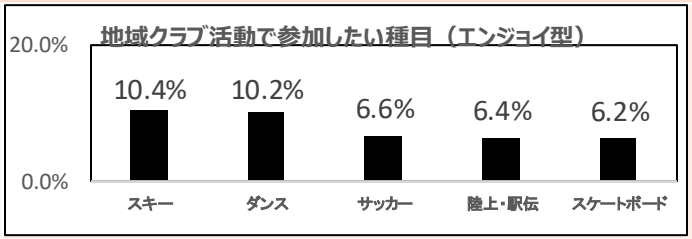
取組事項

昨年度に引き続き部活動と同じ種目を通年で実施するスキップ型と、部活動に無い種目を毎回選択して楽しめるエンジョイ型を用意した。

エンジョイ型の種目は、昨年度雪不足のため実施できなかったスキー以外にもトレッキング、ボルダリング、ゴルフ、硬式テニス、柔道、剣道の6種目を加え、生徒の幅広い要望に応えることができるようにした。特に、季節性の高いスキーについては他の種目と異なり、支援内容を重質してる。積雪状況や天候状況に左右されやすく、中止を余儀なくされる場合が多いため、代替種目を可能にしている。また、会場までのシャトルバスやリフト代は無料にしている、

活動の詳細

参加人数	36 人	指導者数	6 人
属性	スキークラブ活動		
具体的な内容	8:30 シャトルバスにてスキー場に出発 9:00~12:00 2班に分かれてスキーの練習　経験者の班はリフトに乗って練習。初心者の班は緩斜面でボーゲンから練習し最終的に３～４回リフトに乗っての練習。 13:30 シャトルバスにてスキー場を出発		
子供の声	● 基本的なことから難しいことまで教えてもらって良かった。 ● 前やった時は少し苦手だったけど、今回上手に滑れるようになって楽しかった。 ● 1日の体験で自分でも技術が上手になったなあと思えるようになりました。 ● どんどん滑れるようになってきたのがうれしかった。今度はカーブをがんばりたい。		
関係者の声	● 初めてスキーを取り入れたので生徒のレベルに合わせて班を構成し練習を行った。 ● 最初は板になれてなかったので戸惑っていたが、次第に慣れてきたようだった。 ● 今年は雪が豊富にあるので生徒の目標が達成できるようにお手伝いしたい。 ● 生徒一人一人の笑顔を見ることができて指導して良かったと思った。		
運営経費	●指導者謝金 1,600円×3時間 ●シャトルバス　無料 ●リフト　無料 ●レンタル料 （ウェア、スキー板　等）自費		



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等　キ：学校施設の活用等

取組事項（カ）

地域クラブ活動の参加費は年会費2,000円に設定しており、すべての生徒が参加しやすい金額とすることで経済的負担の軽減を図っている。
また、初年度より就学援助受給世帯については参加費を全額免除しており、経済的理由により参加をあきらめることのないよう配慮している。
活動運営には国や県の補助金を活用しているほか、道具のリユース提供も随時募集・活用しており、費用負担の軽減と環境面への配慮を両立している。

取組の成果（カ）

低額な会費設定と免除制度、リユースの取組により、令和６年度は前年度より参加者が増加。市内中学生のうち33.1%が地域クラブ活動に参加しており、受益者負担を抑えつつ、活動への理解や関心が広がってきている。

今後の課題と対応方針（カ）

令和７年度以降、補助金の縮小が見込まれる中で、会費の段階的な見直しや自己負担と公費負担のバランスの検討が必要となる。引き続き、就学援助世帯への支援は継続するとともに、申請のしやすさや対象範囲の見直しも含めた対応策を検討していく。

取組事項（キ）

地域クラブ活動では、市内中学校の体育館やグラウンド、および社会教育施設等を活用しており、施設使用料は発生していない。また、必要な道具や備品については、新品購入だけではなく、地域から提供されたリユース品を一部活用することで、初期負担の軽減を図っている。鍵の開閉や施設利用に関する運用は、指導者が対応している。

取組の成果（キ）

学校施設および社会教育施等設の活用により、施設使用料の負担がなく、運営コストを抑えた活動が可能となっている。また、一部備品の再利用により、道具購入の負担を減らすことができた種目もある。

今後の課題と対応方針（キ）

休日の活動では鍵の貸出・管理に関する指導者の負担が課題となっている。
今後は、施設利用のルール整備や開閉支援体制の検討に加え、備品の管理や使い方についても整理していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組　（安心・安全の確保）

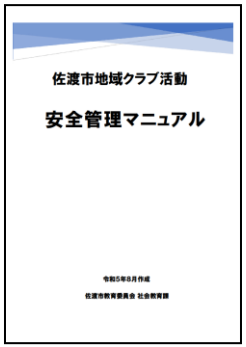
取組事項

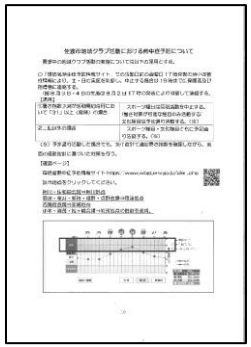
今年度も中学生への適切な対応と指導の仕方を学ぶ研修会を実施するとともに「安全管理マニュアル」と「指導の手引き」の冊子を一人一人の指導者に配布した。近年、猛暑日が多くなっていることから、「安全管理マニュアル」には「佐渡市地域クラブ活動における熱中症予防について」を加え、注意喚起を行った。また、毎回「佐渡市地域クラブ活動　活動日誌」をつけたり、生徒、保護者、指導者に感想を記載してもらったりしている。

取組の成果

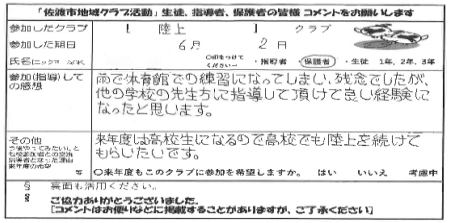
「安全管理マニュアル」と「指導の手引き」には、事故や災害等があった際の対応を示したり、中学生に対する指導の注意事項を示したりしている。今年度は、バスケットボールでスポーツ安全保険の適用となった事案が1件あったがそれ以外は事故もなく安全な活動が実施できている。また、不適切な指導や対応によるトラブルも起きていない。

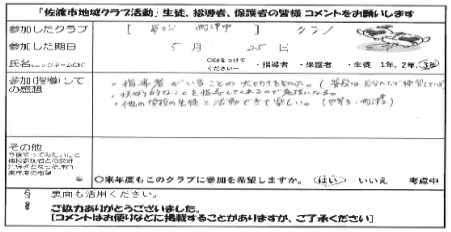






活動実施後のコメント表の事例





毎回活動内容を評価する工夫

活動終了後に毎回コメント表を渡し、生徒、保護者、指導者に感想を書いてもらっている。指導者にとっては、このコメントが技術指導の評価となるとともに中学生への適切な対応ができているかどうかの評価にもなっている。また、指導者は毎回活動日誌を記載することになっている。生徒が活動中に異状があった場合に記載する欄を設けている。活動後に具合が悪くなっても活動中の様子が把握できる。このように安全・安心な活動を目指している。

今後の課題と対応方針

事故や災害はいつ起きるか分からないし起きてもおかしくない。いざという時のためにあらかじめの対策が重要である。年々環境や参加者の状況も変化するのでその時々に合った安全管理マニュアル等の更新が必要である。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度は、5月から月2回の休日を部活動休止日とし、地域クラブ活動を実施している。現在まで大きなトラブルや事故もなく予定通り実施することができている。

指導者に対する研修も島外から指導者を招いて質の高い研修会を実施することができた。大学の教授を講師として中学生への対応の仕方を学んだり、企業で活躍しているトップレベルの選手から技術指導を受けたりと充実した内容の研修にすることができた。

評価活動としては、活動終了後に生徒や指導者、保護者に毎回感想を書いてもらっている。記載内容を見ると、活動に満足している様子や指導者に感謝するコメントがほとんどであり、充実した活動が進められてきている様子が分かる。

会場の確保については、コーディネーターが担当し、事前に調整を済ませることで確実に実施できている。

周知活動については、ポスターの作成やホームページの更新、年10回のたよりの発行も予定通り進んでいる。さらに、地域クラブ活動紹介動画も作成するなど新たな取組も始まり充実してきている。

●成果の評価

中学生の参加者については、令和5年度スキップ型が191人、エンジョイ型が99人（延べ人数）となっていたが、令和6年度には、スキップ型が213人、エンジョイ型が267人（延べ人数）とかなり増えている。また、指導者数においても、令和5年度116人だったのが令和6年度160人と伸ばすことができた。地域クラブ活動の周知がだいぶ進んできたことや、ポスターとたよりに添付している二次元コードから随時参加申し込み可能としていることがこの成果の要因の1つになっていると考えられる。

また、昨年度、地域クラブ活動として活動していたバスケットボールの１チームが単独で運営するクラブチームに移行した。地域クラブ活動から自立活動へと派生したことは、1つの成果ではないかと考えられる。

●今後に向けて

令和7年度は月3回の地域クラブ活動の実施を予定している。活動日が増えることで指導者や会場の確保が大きな課題となっている。また、中体連からは、部活動の練習試合の日程が組めなくなるとの意見が出されている。学校との連携を進め、学校行事に不都合が無いような日程調整が必要となる。参加費の改定も大きな課題である。補助金を受けて2,000円という安価な設定にしているが令和7年度は値上げが必要である。あまり高く設定すると参加したくても敬遠する家庭も想定される。持続可能な活動にするにはいくらに設定するか検討が必要である。

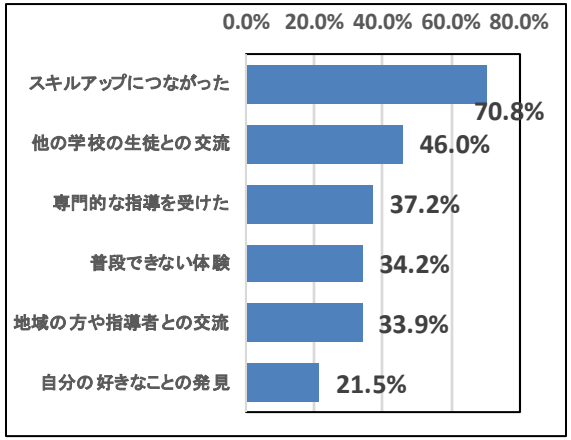
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

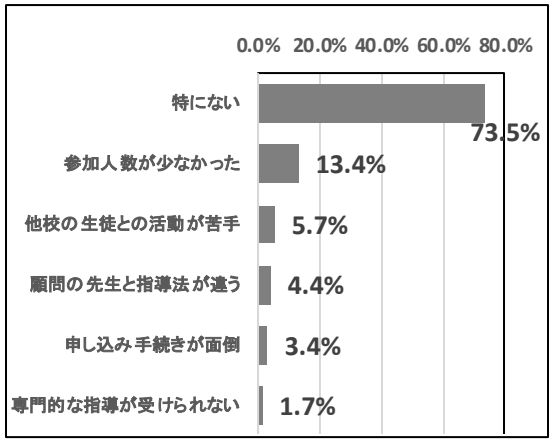
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

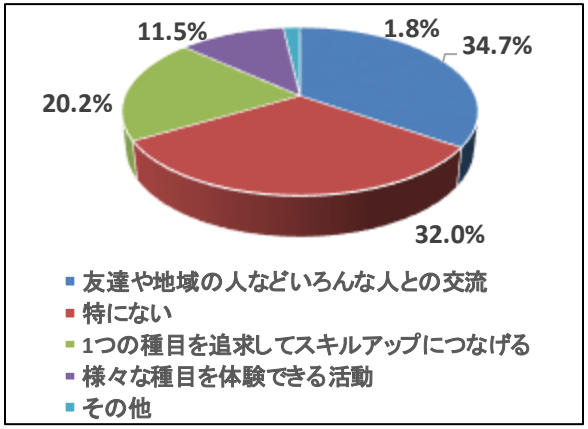
Q.佐渡市地域クラブ活動に参加して良かったことは何ですか？（複数回答）



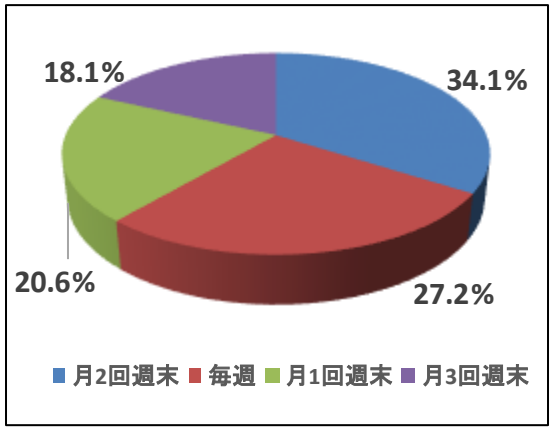
Q.佐渡市地域クラブ活動に参加して良くなかったことは何ですか？（複数回答）



Q.佐渡市地域クラブ活動がどのような活動になったら良いと思いますか？



Q.佐渡市地域クラブ活動の実施回数についてどう思いますか？



●参加者の声

中学３年生（卓球）

部活動では自分たちで練習しているので指導者から教えてもらうことの大切さを知った。技術的なことをいろいろ指導してもらい勉強になった。他校の生徒とも交流できて楽しかった。

中学２年生（マリンスポーツ）

あまり体験する機会が無いヨットやダブルスカルなどができて貴重な経験になりました。乗る種目が自由に選べることができて楽しかったです。中でもサップが一番楽しかったのでまた乗りたいと思いました。

保護者（ソフトテニス）

子どもは初心者なので個別指導をしてくれてありがたかったです。親も勉強になっています。回を重ねるごとに上達していることを実感しています。指導者の方々に感謝しています。参加者がもっと増えるといいと思います。

指導者（ゴルフ）

全く初めての体験という事だったので技術的な面よりゴルフは楽しいものだと思ってもらえるような指導をしました。終わった後、本人が「ああ、楽しかった。」という声を聞いて指導して良かったという想いです。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

アンケート結果・広報資料

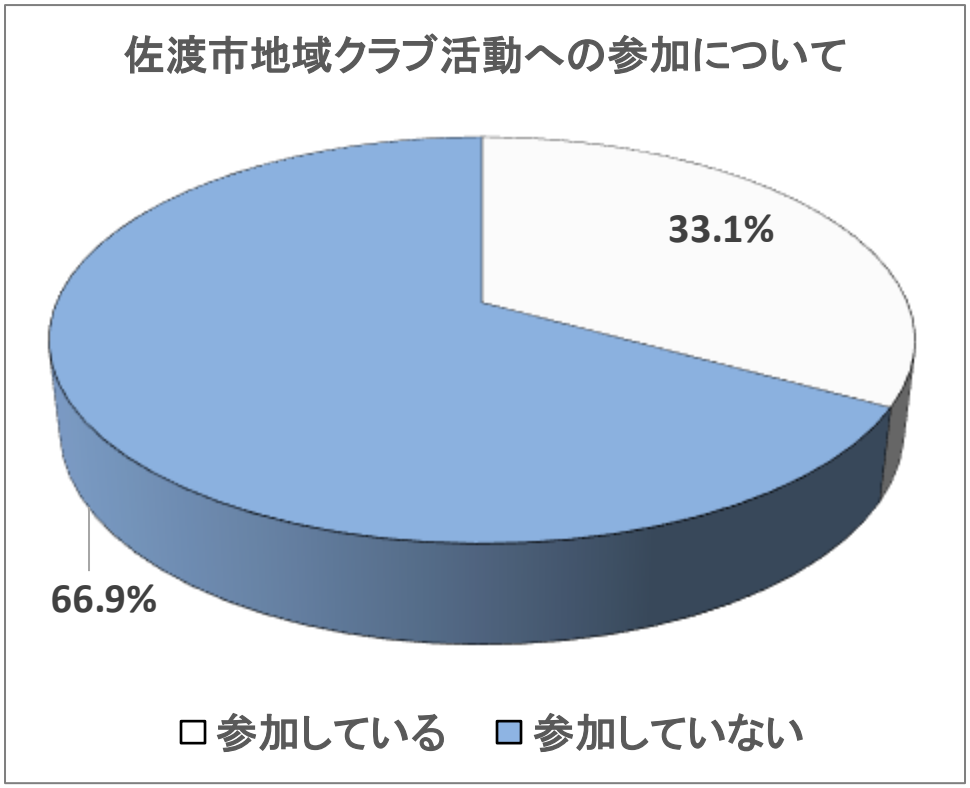
広報としては「地域クラブ活動たより」と「地域クラブ活動ポスター」、ホームページ等により地域クラブ活動の周知に努めるとともにたよりやポスターに二次元コードを載せて随時参加を募ることにした。



【生徒への参加啓発ポスター】

出典:佐渡市教育委員会 社会教育課

令和6年度に佐渡市地域区合部活動に参加した生徒は、市内の中学生の33.1%となっている。昨年度は26%だったので参加率は伸びてきている。



【アンケート結果】

出典:佐渡市教育委員会 学校教育課

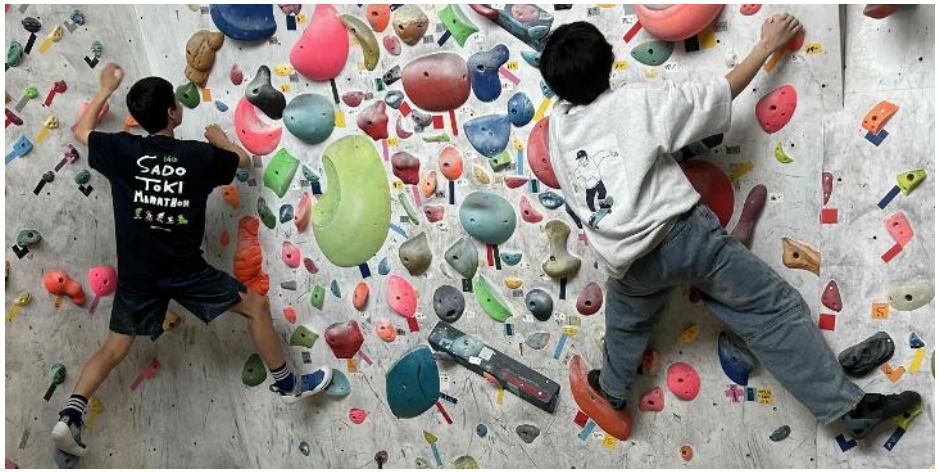
2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【トレッキングで頂上】



【ボルダリングの活動】



【硬式テニスの指導】



【ゴルフでパッティング練習】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和４年

改革検討懇談会設置、検討開始 ▶ 受け皿団体や中体連との協議と指導者の選定 ▶

令和５年

協議会の設置 ▶ 校長会、保護者への説明 ▶ 地域クラブ活動の開始 ▶

令和６年

地域クラブ活動の拡大

ステークホルダー

学校、中体連、スポーツ協会、競技団体
市長部局、市教委、コーディネーター

経過

令和４年度より改革検討懇談会を設置し、部活動の地域移行についての検討を開始した。次いで、令和5年度には地域クラブ活動推進協議会を設置し、新たな地域クラブ体制を令和８年までに構築する推進計画及び地域クラブの活動指針を策定した。令和5年9月には月1回の地域クラブ活動を開始した。指導者には、危機管理マニュアルと指導の手引きを配布し、安心安全な活動についての意識付けを行った。令和６年度は、月2回の地域クラブ活動を開始し現在まで計画通りに実施している。

実施内容

令和5年９月からは市内全13中学校と１中等教育学校において月１回の休日の部活動を取りやめ、地域クラブ活動へ参加する取組を開始した。地域クラブ活動はスキップ型全５クラブ、エンジョイ型全８クラブが実施された。予定した種目のうち、参加者が無かったり気象状況によって開催できなかったりしたクラブもあった。令和6年度は月2回の休日の部活動を取りやめ、地域クラブ活動へ参加する取組を進めている。活動場所の予約や会場の変更等の調整についてはコーディネーターが担当し予定通り地域クラブ活動が実施できるように努めている。

実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、や鍵の貸出に対する指導者の負担が大きいことが指摘された。市役所庁内の検討会議で令和また、種目によっては指導者の不足が大きな課題として指摘されている。スポーツ少年団や地域の企業等へ指導者募集の案内を出すなど、総括コーディネーターによる関係者への働きかけを検討している。

今後の展開

令和７年からは、市内すべての中学校において、休日の地域クラブ活動を毎週実施する。また、持続可能な地域クラブ運営とするために、会費負担を開始する。保護者の理解を得るために、地域クラブの紹介動画やパンフレットを作成し、会費負担の必要性について説明する。

3.今後の方向性

スポーツ庁

佐渡市地域クラブ活動　年次計画

	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
1　運営団体	教育委員会	地域団体（教委関与）		
	達成目標	地域団体への移行		
2　実施主体	佐渡市地域クラブ （スポーツ団体・文化団体）	佐渡市地域クラブ 既存の地域クラブ	→	→ 地域クラブ（市教委関与）
	達成目標	既存の地域クラブとの連係		
3　指導者確保	７月　教職員の兼職兼業意向調査	４月　教職員兼職兼業意向調査	→	→
	受け入れ団体の指導者を依頼	→	→	→
	達成目標	既存の地域クラブや団体の指導者を依頼		
4　指導者育成	指導技術講習会	→	→	→
	達成目標	指導技術向上のための講習会を実施し、指導者を育成		
5　指導者資格	年１回研修会実施	→	→	→ 指導者マスター制度
	達成目標	現在の指導者の８割程度が「指導者マスター」の認定		
6　会　場	受け入れ団体と使用会場を協議	→	→	→
	達成目標	学校体育館と社会教育施設を活用		
7　会費	廉価な年会費の設定	→	→	→
	達成目標	廉価な年会費と要保護・準要保護家庭への負担補助（継続）		
8　アンケート調査	12月　現状と課題を把握し、改善のためのアンケート調査	９月　現状と課題を把握し、改善のためのアンケート調査	→	→
	達成目標	令和８年度　休日完全以降に向けて課題把握と改善		
9　検討会	課題と成果の検討	→	→	→
	達成目標	佐渡市地域クラブ活動推進協議会の開催（継続）		
10　予　算		10月　新年度予算要求　国・県補助金等の申請	→	→
	達成目標	必要予算の整備（継続）		